

# 美術科教育学会通信

1990年10月18日発行：美術科教育学会本部事務局

〒448 刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大学 美術教室内  
☎ 0566-36-3111 (内) 610 FAX. 0566-36-4638

NO.3

## 臨時役員会議の報告

(1990年11月11日・東京)

(午前10時半～12時半、21名出席)

昨年(1989)の11月11日(日)に、東京・渋谷「子どもの城」の一室にて臨時役員会議が開かれました。主な議題は、学術会議登録に伴う「推薦人」と「会員候補者」の選出です。最初に、鈴木寛男代表の挨拶があり、続いて、竹内博理事から学術会議における「推薦人」や「会員」の位置づけなどについて説明がありました。推薦人とは、学術会議の会員を推薦する人、会員とは学術会議会員であるとのことでした(「通信 No. 2」参照)。

審議の結果、本学会からは、推薦人として石川毅理事(宇都宮大学)、会員候補者として鈴木寛男理事(奈良芸術短期大学)を指名することにしました。今年の6月上旬頃に、推薦人会議が開かれて会員が決められ、その後、いわゆる研連委員(研究連絡委員会)の決定がなされる予定です。実際問題として、本学会のように量的に弱小な学会から出た会員候補者が会員に選出される可能性は少ないとのことでした。

また、教科教育学に関して学術会議への登録団体は、1教科1学会が原則となっていることから、美術教育のように1教科で2学会(本学会と日本美術教育学会)が登録された場合には、その間の調整なども今後の検討課題になるだろうという話題も出ました。

他には、選挙制度検討委員会及び学会誌編集委員会の中間報告がありました。

そして、前年度学会の報告と学会誌の編集状況が吉井宏理事より報告されました。

最後に本部事務局会計部から、郵便振込による会費の納入状況があまりよくないことが報告され、今後は従前のように学会会場で集める方法も検討すべきだという意見も考慮して、事務局で具体的な集め方を検討することになりました。役員選挙に伴う選挙人名簿の基礎となる会員資格と会費納入とをどう関連づけるかも問題となりました。

### 学会役員選挙による選出について

### 選挙制度検討委員会からの報告

昨年(1989)の学会総会(第12回・福岡)において、役員選挙を検討することが決まり、竹内、宮脇、柴田、長田、石川の5人がその衝に当たりましたが、その経過を報告します。

1990年9月28日(日)第1回会合(於・東京学芸大学)

” 11月11日(日)学会臨時役員会議にて報告(於・東京「子どもの城」)

” 12月25日(火)第2回会合(於・東京「べんてるビル」)

以上の集まりを経て、以下のような案を得ましたのでご覧ください。

役員名称を「理事」に統一し、役員の数を選挙選出理事を15名、補充理事(選出理事によって委嘱される)を15名までとする。選挙人名簿は、当面、現名簿とする。等が主な問題点です。現在、本部事務局で会則改訂を含め検討中で、3月の総会には成案を得たいと思っています。

(文責：石川 毅)

# 学術会議シンポジウムに参加して

増田 金吾（東京学芸大学）

昨年11月27日、東京六本木の日本学術会議大会議室で開かれた日本学術会議教科教育学研究連絡委員会主催のシンポジウム、「教科教育学研究の方法論的検討」に参加しました。

平日のためか、参加者は意外に少なく、美術教育関係は提案者である京都教育大の竹内先生、元横浜国立大の真鍋先生、北海道教育大の山田先生、それに小生の計4名だけで、全体でもざっと4～50名ほどの参加者数でありました。

主催やテーマ等は先に述べた通りですがこれは、日本学術会議教科教育学研究連絡委員会、日本教科教育学会、日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、日本農業教育学会、日本音楽教育学会、全国大学国語教育学会、日本美術教育学会、日本家庭科教育学会、日本数学教育学会、日本理科教育学会、日本国語教育学会の以上12団体が共催しております。次回からは美術科教育学会もここに名を連ねることになるかと思えます。（なお、学術会議の性格等については本通信No.1で竹内先生が詳しく述べられているのでご覧下さい。）

教科教育学研究連絡委員会委員長の開会の挨拶に始まり、同会幹事の研究経過報告の後シンポジウムに入りました。

午前中は、国語、社会、数学、農業の各教科教育学の立場からの提案があり、午後は理科、美術、音楽、家庭の各教科教育学の立場からの提案と、「教育学の立場」や「教科教育学の研究の在り方」それぞれについての提案がありました。この後、総合討論に入り、熱心な質疑応答が行われ5時に閉会しました。

各提案の各科共通する面は他の分野の人にも分かり易い内容でした。しかし、時間的制約もあり、提案者の専門とする部分の内容が、具体性を欠いていたという感は否めません。

討論は、専門外の教科への質問はしにくく、中々噛み合わない面もありましたが、参加経験のある（と思われる）方を中心とするやりとりは活発でした。一方、先に述べた自教科の説明不足は、この討論の際、質問等、様々な発言を受けて補足がなされ、ある程度解消されました。

各教科について感想を述べる紙幅はありませんが、美術教育の提案は、「教科教育学の研究の在り方」を提案した幹事の蝦谷米司先生を始め多くの方に高く評価されていました。一方、岩手大の駒林邦男先生の提案は、教育学の立場から、教科教育学研究者に興味と刺激と反省を与えてくれました。それは現在の学校教育の在り方、特に「落ちこぼし」をしている今日の授業についての鋭い指摘でありました。これを防ぐためには、「落ちこぼし」授業の中核的構成要素である「制度化された知」としての教科書教材を、子どもの「学力」の状態と認識発達の論理とに即して、批判的に組み換えることが必要である、と述べられました。

いずれにしても、様々な立場の研究者からなるこうしたシンポジウムの必要性を強く感じました。そして、子どもを全人的にとらえるためには、専門性の追求のみに終始せず、広い視野に立つことの重要性を再認識させられました。

『通信 No. 2』で紹介しました「美術教育を語る会」の報告です。企画者の一人である川路澄人会員（筑波大学・院）から寄せられた原稿をダイレクトにお送りします。

## 美術教育を語る会(神戸)開催語る

去る11月21日に神戸において「美術教育を語る会」が盛大に開催された。筑波大学の宮脇先生の企画で、神戸大学の東山先生と美作女子大学の竹井先生を幹事に三宮の「寿里庵」に70名もの教官、院生、OB、OGが集った。会の司会は竹井先生、宮崎大学の上山先生、横浜市菅田中学校の山口先生、筑波大学の川路院生の4人。

宮脇先生からこの会の当初の趣旨と経緯をお話いただいたあと、東山先生の音頭で乾杯が行なわれた。乾杯後の会場は大学院間の壁が崩れ、初対面同士が和気霽々と酒を酌み交わし、その話し声で司会のマイクの声も聞こえないほどだった。

会場の熱気をよそに、司会の方では歓談の合間をぬっていくつかの議題を消化した。主な内容としては愛知教育大学のふじえ先生から『アート エデュケーション』の企画、『美育文化』の編集者穴澤氏から来年度からの新企画の資料配布と説明、上山先生と川路院生から美術教育院生協議会の活動再開についてのお願（後記）等であった。美術教育院生協議会においては会場で「美術教育を研究する院生を助ける資金」をいう名称で参加者のカンパを募った。カンパ袋の中に1円玉から5000円札まで酔った勢いで気前よく入れてくださり、最終的には69,621円が集まった。このお金はこれから再開する協議会の最初の郵送費等に使用する予定。大いに盛り上がった会も、最後に大阪教育大学の花篤先生のお言葉と山口先生の応援団顔負けの美声によるエールで閉められ、無事終了した。

これほど大規模な院生の集会の成功は、これからの美術教育をささえる若い層の厚さを示す出来事となるであろう。そしてその成果はこれからの院生協議会の活動に現われてくるものと考えらる。

参加大学は西から宮崎大学、大分大学、山口女子大学、美作女子大学、広島大学、兵庫教育大学、神戸大学、香川大学、鳴門教育大学、大阪教育大学、大阪女子短期大学、大阪基督教短期大学、京都大学、上越教育大学、愛知教育大学、横浜国立大学、千葉大学、筑波大学、群馬大学、山形大学、福島大学、岩手大学、北海道教育大学の23大学。

### ★ 美術教育院生協議会活動再開についてのお願

今回の会に参加できなかった方々も、是非本会にご加入下さい。会員は現役院生に加えOB・OGも募集しております。会の運営は全国の大学院が当番制で受け持つことにしたいと思いますが、今回は筑波大学で担当させていただきます。前回の反省点として、修士課程（2年）は期間が短いことによる引き継ぎ等の問題がうまく行かないということが挙げられたため、次回から筑波大学が会の世話役として常任し、当番大学の補佐を行なう予定でおります。会の活動としては院生間の情報交換の場として、まず各大学院の実状、そして院生の研究内容などの紹介を会報を使って行ないたいと思います。それには全国院生の名簿作成と、経済的問題解決のため会費（500円相当）の徴収が再開後の最初の活動となります。近日中に協議会の方から連絡があると思いますので皆様のご協力をよろしくお願い致します。

連絡先 〒305 つくば市下平塚131 桜井AP-5 Ⅱ 0298-58-0164  
川路 澄人（筑波大学 博士課程3年）

本部事務局からのお知らせ	1. 新入会員	2. 会員消息	3. 会費納入
--------------	---------	---------	---------

1. 新入会員 (昨年6～12月末までに入会申し込みをされた方—50音順・敬称略)

- |                      |                     |
|----------------------|---------------------|
| 秋谷 英紀 (愛教大・院)        | 家村 珠代 (東京芸大・院)      |
| 石井 優子 (中延学園高校)       | 石村 真一 (郡山女子大学附属高校)  |
| 今井 健一 (青森県立黒石商業高)    | 上田 秀洋 (信州大・助教授)     |
| 金子 宜正 (上越教育大・院)      | 金田 卓也 (立教女学院短大・非講師) |
| 川島 芳子 (横浜国大・院)       | 川田 祐子 (横浜国大・院)      |
| 紀谷 邦子 (横浜国大・院)       | 邱 明 嬌 (横浜国大・院)      |
| 蔵屋 美香 (千葉大・院)        | 黒川 建一 (愛教大・教授)      |
| 佐藤 厚子 (美術館教育研究会)     | 清水 靖子 (千葉大・院)       |
| 白沢 菊夫 (福島大・教授)       | 高橋 敏之 (作陽女子短大・講師)   |
| 中本 岩雄 (PL学園女子短大・助教授) | 堀内 秀雄 (名古屋短大・助教授)   |
| 前田 元子 (横浜国大・院)       | 八幡 文明 (郡山女子大学附属高校)  |
| 渡邊 節子 (横浜国大・院)       | 以上、23名です。           |

2. 会員消息 (50音順・敬称略)

\* 所属の変更、転居等があった場合は本部事務局まで御一報下さい。特に、現職で大学院入学・修了された会員の「転居先不明」が増えていますので御協力下さい。

- |                      |                    |
|----------------------|--------------------|
| 阿部 寿文 (道都大→大阪女子短大)   | 新井 哲夫 (横浜国大・院→群馬大) |
| 川路 澄人 (千葉大・院→筑波大・院)  | 栗田 真司 (筑波大→山梨大)    |
| 橘 美知子 (保育学院→滋賀大)     | 星 邦男 (江戸川区立小→弘前大)  |
| 増田裕子 (横浜・中→板橋・志村第5中) | 宮坂 元裕 (上越教育大→横浜国大) |
| 村田 利裕 (長崎大→鳴門教育大)    |                    |

3. 会費の納入に関するお知らせとお願い

毎度、ゼニの話ばかりですみません

事務局会計部が愛教大に移って以後、昨年(1990年)の12月末までに振り込まれた方は、135名です。名簿の不備や会計年度の切替え、「郵便振込」のみという今回新しく採用された方式の問題点もあって会員の皆様には、罔らずも不義理をしてしまった方もあるかと思ひます。また、89年度会費を重複して納入された方もありますので、宇都宮大学での学会までにはできるだけ完全なチェック・リストを作成して、学会の会場受付でも、会費の納入受付をする予定です。できるだけ、郵便振込でお願いします。昨年度分(1990年12月締め)までの会費の納入の方法については本通信のNo.1をご覧ください。

◇会費納入振込先 (口座番号) 名古屋 4-7814  
(加入者名) 美術科教育学会本部事務局会計部

\* 「通信欄」には必ず、「〇年度会費」と御記入下さい

●「町田金森東」の局印で、12月18日に4,000円を振り込まれた方、「払込人」が不明です。至急、事務局までお知らせ下さい。